

令和4年度第1回青森市子ども・子育て会議概要

令和4年度第1回青森市子ども・子育て会議は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、書面により開催しました。

1 開催日 令和4年8月9日（火）

【回答受付期間：令和4年8月9日（火）～令和4年8月23日（火）】

2 参加委員 内海隆 委員、鳴海一成 委員、高橋多恵子 委員、竹内寛 委員、常田清彦 委員、
天間美由紀 委員、長根祐子 委員、長谷川直子 委員、松本香 委員、三上省治 委員、
湯沢あけ美 委員、和田律子 委員
《計12名》

3 案件 青森市子ども・子育て支援事業計画の達成状況の点検及び評価

4 その他 青森市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて

5 委員からの意見及び事務局からの回答

○委員 幼稚園教諭と保育士等の合同研修に対する支援等の評価が低かったのはコロナのためで仕方がないと考える。

児童福祉の課題は、幼稚園教諭、保育士等の高齢化と思う。新人の獲得が現状で非常に難しい。県外への流出をどのように防ぐかが課題だと考える。

●事務局 保育士等の確保に向けては、国の制度に基づき、給与面での処遇改善を推進しているほか、青森県社会福祉協議会が青森県からの委託を受けて運営している「青森県保育士・保育所支援センター」において、保育士に係る求職・求人の支援を行っているところです。

引き続き、保育士等として働く方にとって、より良い労働環境の整備に向け、国の制度に基づき、保育士等の処遇改善に努めてまいります。

○委員 幼稚園教諭と保育士等を対象とした合同研修については、研修が単発のものではなく、つながりを持ったものにできると、さらに質の向上につながるのではないかと思います。

「量」についてもだが、子どもたちが健やかに育つ場として「質」についても検討できるようになるとより良いと思う。

●事務局 青森市子ども・子育て支援事業計画では、教育・保育の質を確保するため、市主催の幼稚園教諭と保育士等の合同研修の実施等を定めており、今後も引き続き、教育・保育の量のみならず、質の確保に向け、合同研修等の取組を推進してまいります。

○委員 子育てに関する相談がもっと気軽にできたり、相談先として、様々な事業があることがもっと周知されるように、周知やPRの方法が工夫されたり検討されたりするとよいと感じる。

●事務局 あおもり親子はぐくみプラザや浪岡振興部健康福祉課において、子育てに関する相談を受け付けているほか、乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所として、駅前庁舎につどいの広場「さんぼぼ」、市内6か所に地域子育て支援センターを開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行っております。

また、これらの取組や相談先は、市ホームページ、広報あおもり、子育て情報誌Let'sげんきにおいて周知を図っております。

今後も、市民の方が子育てに関する相談を気軽にできるよう、これらの取組を推進してまいります。

○委員 青森市子ども・子育て支援事業計画の達成状況の点検及び評価について、新型コロナウイルス感染症の影響により評価が下がっていることが分かった。

●事務局 令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できない事業もありましたが、コロナ禍においても、工夫しながら可能な限り各事業の実施に努め、子ども・子育て支援事業計画の推進に努めてまいります。

○委員 保育の現場でお子さん達を観察していると、家庭における養育に問題があると思われるケースが見かけられる場合もあるが、いわゆる虐待の事案までいかない、その種のケースの場合に、養育の指導援助の相談はどういう部署に、どのような方法で行うのが適切か、教えていただきたい。

●事務局 家庭における養育に問題があると思われるケースにつきましては、虐待に進展する可能性もあるため、あおもり親子はぐくみプラザに電話等でご相談ください。

○委員 幼稚園教諭と保育士等の合同研修について、やる意味は非常に大きいと思う。
対面が望ましいが、実施方法を工夫して、何とか開催にこぎつけられるといい。

●事務局 幼稚園教諭と保育士等の合同研修は、幼児期の一体的な教育・保育の推進及び質の高い教育・保育を提供するために重要な取組であることから、コロナ禍においても実施できるよう、引き続き実施方法等を検討してまいります。

○委員 幼・保・小の連携推進について、評価Aとなっているが、実態は形骸化しているのではないか。新たに「架け橋プログラム」なるものが言われている。これを機会に、子育て支援課と教育委員会の両者が関わり、リーダーシップをとって進めていただけるよう期待している。

●事務局 教育委員会では、令和4年10月4日に「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けて」のリーフレットを各小学校長に配付し、架け橋期のカリキュラムの作成を通してスタートカリキュラムの見直しを図るよう依頼しました。

今後も子育て支援課と教育委員会、施設（園）、小学校が幼・保・小連携に係る情報交換会を通して、施設（園）から小学校への接続がスムーズに行われるよう、架け橋プログラムの充実を図るよう努めてまいります。

○委員 新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった事業もあったが、全体評価としては「十分な成果を認めることができる」という評価になり、良かった。

●事務局 令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できない事業もありましたが、コロナ禍においても、工夫しながら可能な限り各事業の実施に努め、子ども・子育て支援事業計画の推進に努めてまいります。

○委員 青森市子ども・子育て支援事業の中間年の見直しについて、改めて、量の見込みの精度を高めることが重要と考える。

●事務局 令和4年度は青森市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しの年となっていることから、これまでの実績を基に、国の手引きも参考にしながら適切な計画の見直しを進めてまいります。